

解答速報

2022 年度冬期 ドイツ語技能検定試験 筆記試験

2 級 大問 1～大問 4

注：本試験での設問文および選択肢は、問題にならない程度に簡略してありますので、
全書データは、受験時の問題冊子をご覧ください（文言訂正も含まれます）。

注：本頁は、受験後のみなさんが解答の正解か不正解かの結果だけでなく、この試験
の設問内容をよりよく理解する一助になればと思い、私たち独自の解答手順を要
点的にまとめたものです。

大問 1 次の(1)～(3)の問いに対する答えを下の 1～4 から一つ選び、その番号を解
答欄に記入しなさい。

小問(1) 次の a と b の文がほぼ同じ意味になるように、()に入る適語を選びなさい。

a Die Veranstaltung ... *設問文は、適宜一部のみ示します。

b Die Veranstaltung ...

選択肢 -----<省略>-----

【解答手順】

まず、選択肢を確認します。選択肢は finden, hören, sagen, suchen の動詞。

次に、設問の a 文と b 文を比較して、共通していない部分を確認します：

a 文 ... endet ...

b 文 ... () ... ihr Ende

共通していない部分は、a 文の endet と b 文の Ende と () の動詞とで作る熟
語的動詞句 (enden の意味は「終わる」)。

この後は、語彙力ないし熟語力の問題になります。Ende と結びつき、「終わる」の
意味になる動詞は finden。したがって、正解として、選択肢の finden を選びます。

この設問の場合、まず、両者の、表現上の相違部分を確認し、次に、()に入れ
れば、両者が同義になるような選択肢を選ぶというのが私たちの解答手順になります。

小問(2) 次の文(A)～(D)の()に入る語が正しい順序で並んでいるものを選びな
さい。

(A) Das Hotel liegt () der Stadt. *正解の設問文は必要な範囲で全書します。

(B) Die Kinder ... () ...

(C) Wir alle ... () ...

(D) Bis zur Stadtmitte ... () ...

選択肢表	(A)	(B)	(C)	(D)
1	aus	auß...	dra...	dar...
2	außerhalb	draußen	daraus	aus
3	dra...	dar...	aus	auß...
4	dar...	aus	auß...	dra...

*正解の選択肢の横列の単語のみ全書しました。他は冒頭3文字のみ。

【解答手順】

この設問の場合、説明が少し長くなります。

まず、選択肢ですが、単語が縦横4列に並べられています(これを「選択肢表」とします)。一見、複雑そうですが、実際は aus, außerhalb, draußen, daraus の4つの単語が異なった順序で並べられているだけです。

次に、設問文ですが、それぞれが()を一つ持つ4つの文が併記されています。

そして、最後に、設問の指示ですが、「まず、(A)~(D)の()に入る語が正しい順序で並んでいるものを選びなさい」となっています。

以上のことを私の言葉で整理すると、まず、4つの設問文の()に入る適切なものを aus, außerhalb, draußen, daraus の4つの単語から選び、選んだ4つの単語が横一列で、設問文の順(A→B→C→D)で並んでいる選択肢を選びなさいということになります。

そこで、『過去問題集』での解説を見ると、設問文の一つひとつについて、()に入る適切な語を示し、そして、最後に、()に入るべきものとされた語が設問文の順に並んでいる選択肢の番号を正解として記載しています。

そこで、ちょっと考えてみたのですが、もし単に正解を知りたいというだけの場合、もっと簡単な解答手順があるのではないか?ということです。

すなわち、たとえば、まず、4つの設問文を「ざっと」眺めてみて、その結果、設問文(A)の()に入る適切な語が、仮に、außerhalb であつたら、それは、同時に、①その上下の3つの語 aus, draußen, daraus は、設問文(A)での「不適切な」語ということになり、そして、そのことは、さらに、②それらの語が設問文(A)の縦列に含まれている選択肢1と3と4も「不適切」、すなわち「誤答」であることを意味するので、正解は、必然的に、残る2になるのでは?ということです。

以上が、この設問の場合の、私たちが考えた解答手順ですが、再度、別の言葉でまとめてみると、

①まず、設問文と選択肢の数の多さに驚かない(試験の際、冷静さが必要!)

②次に、設問文のそれぞれの（ ）に入る適切な語は、選択肢表に挙げられている aus, außerhalb, draußen, daraus の4つのどれだろうと、まずは、心を落ち着けて考える

③一呼吸置いたところで、どの語をどの設問文の（ ）に入れたものが自分には一番しっくりいくか（最も確信を持てるか）を考える

④そして、最後に、③で選んだ設問文のアルファベット（A, B, C, Dのどれか）と（ ）に入れるべきとした語（aus, außerdem, daraus, draußenのどれか）の合致する選択肢を「選択肢表」で確認し（左側列の1, 2, 3, 4のどれか）、それを正解の選択肢として選ぶ

ということになります。

どうでしょう？要は、4つの設問文のどれか一つでよいので、適切な文が見つければ、設問全体の正解もそこから「割り出す」ことができるのではないかということです。

注：2021年度夏期、2019年度冬期などの場合、以下のように、各設問文に同一の語が二度記載されています。一見、こちらの方が解答しやすそうに見えますが、このような設問の場合、まず、第一段階で、上述の方法で、正解の候補を2つ選び、次の第二段階で、再度、上述の方法で、先に選ばれた2つの選択肢から最終的な正解を選ぶという「二段階の手順」になります。

	(A)	(B)	(C)	(D)
1	außerhalb	außerhalb	daraus	aus
2	außerhalb	draußen	aus	daraus
3	draußen	draußen	aus	daraus
4	draußen	außerhalb	daraus	aus

小問(3) 次の文(A)～(D)の（ ）に入る語が正しい順序で並んでいるものを選びなさい。

(A) In dieser () -----

(B) Wir ----- auf die anderen Teilnehmer () nehmen.

(C) Hier oben -----

(D) Ihm war -----

選択肢表	(A)	(B)	(C)	(D)
1	----	Absicht	----	<省略>----
2	----	Hinsicht	----	<省略>----
3	Hinsicht	Rücksicht	Aussicht	Absicht
4	----	Aussicht	----	<省略>----

【解答手順】

この場合の私たちの解答手順は、上掲の(2)で述べたものと同一です。

まず、選択肢を見て、記載されている語が Absicht, Aussicht, Hinsicht, Rücksicht の4つであることを確認します。

次に、設問文を見て、それぞれが（ ）を一つ持つ4つの設問文であることを確認します。

以上のことを確認した上で、どの語をどの設問文の（ ）の中に入れると、自分には一番しっくりいくか（すなわち、最も確信を持てる設問文か）を考え、そして、その検討結果として選んだ設問文のアルファベット（A, B, C, D）と（ ）に入れるべきとした語（Absicht, Aussicht, Hinsicht, Rücksicht）が合致する選択肢を「選択肢表」で確認し（左側列の1, 2, 3, 4のどれか）、それを正解の選択肢として選びます。

大問2 次の問い(1)～(4)に対する答えを下の1～4の中から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

小問(1) 次の文 a と b の（ ）に共通して入るものを選びなさい。

- a ... geht optimistisch davon (), dass ...
b ... Band besteht () musikbegeisterten Studentinnen ...

選択肢 -----<省略>-----

【解答手順】

まず、選択肢を確認します。選択肢は an, auf, aus, mit の前置詞。

そして、次に、（ ）と、文中の他の語句との関係を確認します。

設問の指示は、「（ ）に共通して入るものを選びなさい」となっています。

a 文の場合、（ ）が前半部の**末尾**、したがって、（通常の前置詞ではなく）定形の動詞 geht (<gehen) と結びつく**分離前つづり**、すなわち angehen/aufgehen/ausgehen/mitgehen のどれかの**分離前つづり**と推測します。そして、（ ）の前後を見ると、後ろは **dass 文**、前は dass 文を受けるであろう **davon** (da-+von) があります。

これらを考え合わせて、上掲の4つの分離動詞から適切なものを選ぶこととなりますが、…ここからは語彙力の問題…、私たちは von+3格 gehen 「…³と仮定する」の **ausgehen** を選びます。

b 文の場合、（ ）の**前**が動詞 besteht (<bestehen)、**後ろ**が**名詞**、したがって、（ ）に入るのは、bestehen と結びつく前置詞、すなわち an, auf, aus, mit のどれかとなります。そこで、…ここからも語彙力の問題…、前の Band の意味は「バンド（楽団）」、後ろの Studentinnen und Studenten の意味は「学生たち（複数形）」。これらの意味を考え合わせると、上掲の前置詞で問題になるのは aus+3格 bestehen 「…³から構成されている」の **aus** と推測します。

以上のように考え、a 文では**分離前つづり**、b 文では一般的な**前置詞**との相違がありますが、これらは、形態的、語源的に同一と言えるものなので、正解として選択肢の aus を選ぶというのが私たちの解答手順になります。

小問(2) 次の文 a と b の（ ）に共通して入るものを選びなさい。

- a Er () mir ..., mit dem Rauchen aufzuhören.
b Das Theaterstück () ein voller Erfolg zu werden.

選択肢 -----<省略>-----

【解答手順】

この場合の私たちの解答手順は、上掲の(1)で述べたものと同一です。

まず、選択肢を確認します。選択肢は brauchen, sein, versprechen, versuchen の動詞。

そして、次に、() の文中での位置や文中の他の語句との関係をそれぞれで確認します。

a 文の場合、() が動詞の「定位置」(定形第2位)、そして、主語 Er と3格の人称代名詞 mir に挟まれ、末尾に zu 不定詞句があります。これらのことを考え合わせると、() に入るのは、3格+4格(zu 不定詞句)と結びつく動詞ということになりますが、特に、3格との結びつきを考えると、選択肢の動詞の中で、最も合致する動詞は verspricht (<versprechen)、すなわち、3格+4格+versprechen「…³に…⁴を約束する」の versprechen かな、となります。語彙力の問題ですが。

b 文の場合も、() が動詞の「定位置」(定形第2位)。ただし、a 文の場合と異なり、後ろには zu 不定詞句のみとなっています。したがって、まず、versprechen に zu 不定詞句とのみ結びつく用法があるかどうかということになります。ここからも、また、語彙力の問題になりますが、答えは ja で、そして、その場合の意味は、「…⁴になりそうだ、見込みがある」。

そこで、さらに、() の前後の名詞の意味を確認すると、Theaterstück は「戯曲」、Erfolg は「成功」。これらのことも、versprechen を「適切な動詞」と判断することと矛盾しませんし、むしろ「下支え」しますね。

以上のように考え、a 文と b 文の「推測的」結果に「不合理性」がなければ、正解として選択肢の verspricht を選ぶというのが私たちの解答手順になります。

小問(3) 次の文の下線部に入る最も適当なものを選びなさい。

Uns ..., dass wir gleich _____ können, wenn ...

選択肢 -----<省略>-----

【解答手順】

まず、選択肢を見ると、動詞 erreichen の様々な文法形式

- ①受動形 (erreicht werden) ②完了形 (erreicht haben)
③haben+zu 不定詞句 (zu erreichen haben) ④未来形 (erreichen werden)

が並んでいます。

そこで、次に、文全体の中での、これらの持つ文法的つながりを見るため、設問文の下線部に具体的に書き入れてみます。

- ①..., dass wir gleich **erreicht werden** können, wenn ... (受動形)
- ②..., dass wir gleich **erreicht haben** können, wenn ... (完了形)
- ③..., dass wir gleich **zu erreichen haben** können, wenn ... (zu 不定詞句)
- ④..., dass wir gleich **erreichen werden** können, wenn ... (未来形)

これらの相違点で興味深いのは、①のみが(受動文を作っている)他動詞としての、そして、他の②③④が(目的語を伴っていない)自動詞としての用法であるということです。通常、erreichen の用法として学ぶのは他動詞ですので、①のみが正解ではないかと推測できますが(念のため、『新キャンパス独和辞典』(郁文堂)を見ると、「他動詞」とのみ記載されています;個人的宣伝)、しかし、これだけで選択肢を決めるのは不安でしょうから、さらに、上述の推測(他動詞である)に基づき、以下の2点を確認することになります：

- ①erreichen がそもそも受動形にできる動詞なのか否か
- ②受動形にした場合の主語が wir になるような語義があるか否か

erreichen の…また、語彙力の問題になりますが…記載されている複数の語義すべてで受動形が基本的に可能で、かつ、その中の「…⁴に連絡がつく」という語義では、目的語が「人」、したがって、受動形にした場合、wir が主語になるのも可能です。

この設問の場合は、以上のように、まず、文法的観点から正解になる選択肢を絞り、そして、次に、意味的観点から…語彙力の問題はどうしても避けて通れないようですね…最終的な選択肢を選ぶというのが私たちの解答手順ということになります。

小問(4) (A)～(C)を並べ替えて文を完成させるとき、正しい順序になっているものを選びなさい。

Als ... Verkehrspolizist ... Führerschein fragte, habe ich ___ ___ ___ gezeigt. ...

- 選択肢表
- | | | | |
|---|-------------|---|-------------|
| 1 | (A) (B) (C) | 2 | (A) (C) (B) |
| 3 | (B) (A) (C) | 4 | (B) (C) (A) |

【解答手順】

まず、選択肢を見ると、(A) ihm, (B) ihn, (C) mit Stolz, すなわち人称代名詞と前置詞句。

次に、設問文を見ると、3つの下線部が引かれています。

したがって、設問の問いは、設問文の下線部に ihm, ihn, mit Stolz を「正しい順序で」書き入れるとすると、どのようになるかということで、いわば語順の問題。

人称代名詞と前置詞句に関する主な語順規則の一つ目は、重要な情報ほど後ろに置く、二つ目は、長い語句ほど後ろに置く、そして、三つ目は、人称代名詞同士の場合、4格→3格の順序になるというものです。

この三つの規則のうち、…一つ目は複雑なのでスルーして…、二つ目の規則を上掲の ihm, ihn, mit Stolz の語句に当てはめると、前置詞句 (C) は、人称代名詞 ihm, ihn より長いので、末尾。したがって、選択肢表の 1 と 3 が正解の候補として残ります。

そして、最後の三つ目の規則を適用すると、「4 格 ; ihn ; B」→「3 格 ; ihm ; A」の順序になりますので、(B) が (A) の前に来る選択肢 3 が残ります。

以上のように考えて、正解として選択肢 3 を選ぶというのが私たちの解答手順になりますが、なお、ドイツ語の語順一般に関しては、『独検情報』欄の「D 文法解説」のコラム「ドイツ語の語順」を参照していただければと思います。

大問 3 次の(1)~(5)の a と b の文がほぼ同じ意味になるように () の中に最も適切な一語を入れて、b の文を完成させなさい。

小問(1)

- a Wenn -----
- b Entweder ... , () ...

【解答手順】

設問の問い自体は、大問 1 の小問 1 と同じですが、この設問の場合は、選択肢が与えられておらず、したがって、() に入れる「最も適切な一語」は、自らの「語彙力」で自ら書き入れなければならないということです。

じゃ、どうするかですが、大問 1 の小問 1 のように、まずは、a 文と b 文を比較して、「なんとなく」共通していない部分を確認 (推測) します：

- a 文 Wenn ... nicht ..., dann musst ...
- b 文 Entweder ..., () ...

a 文の場合は、「もし…でないならば、その時は…しなければならない」というような意味だと理解できるのですが、b 文の場合は、entweder のみ。一見、どうしようもない気持ちになりますが、ただし、他方、entweder が oder と結びつく熟語表現であることを学んでいる人なら (意味は、「…か (または…)」)、() に入る語は、ひよっとすると、oder かなと推測する (できる) かも知れませんね。

しかし、これだけで正解の選択肢を決めるのは不安でしょうから、実際に、() に oder を入れて a 文と b 文を訳してみると、以下のようになります。

- a 文：君は、もし試験に合格しないと、講習をもう一度受けなければならない。
- b 文：君は、試験に合格するか、もう一度講習を受けるかのどちらかだ。

一応、両文が「ほぼ同じ意味」を表していると言えるので、正解として、oder を記載します。…やはり、最後は語彙力でしょうかね？

以上が、この設問の場合の、正解の選択肢を選ぶ私たちの解答手順になります。

小問(2)

- a Sie erklärte dem Patienten ... Situation nicht.
b ..., () dem Patienten ... Situation zu erklären.

この設問の場合も、(1) で述べた私たちの解答手順を適用します。すなわち、まずは、両文を比較して、「なんとなく」共通していない部分を確認（推測）します：

- a 文 ... weg. Sie erklärte ... Situation nicht.
b 文 ... weg, () Situation zu erklären.

両文で共通していないのは、a 文の場合、後半も主文であるのに対して、b 文の場合、後半が主文を修飾する **zu 不定詞句** になっている点ですね。すなわち、設問の問いは、b 文の zu 不定詞句を a の後半文と同義にするにはどうしたらよいか、すなわち () にどんな語を入れればよいかということになります。

そのためには、とにかく、a 文の意味を理解しなければなりませんので、…またもや「語彙力」…、一応、訳してみると、「…去った。彼女は患者に…病状を説明しなかった」。この訳の意味に相当する zu 不定詞句は「ohne+zu 不定詞句」ですので、正解として、() に ohne を記載します。

以上が、この設問の正解の選択肢を選ぶ私たちの解答手順になります。

小問(3)

- a in Bremen. Das habe ich nicht gewusst.
b ... in Bremen, () ich nicht gewusst habe.

この設問の場合も、(1) で述べた私たちの解答手順を適用します。すなわち、まずは、両文を比較して、「なんとなく」共通していない部分を確認（推測）します：

- a 文 ... Bremen. Das habe ich ... gewusst.
b 文 ... Bremen, () ich ... gewusst habe.

両文で共通していないのは、a 文の場合、後半も主文であるのに対して、b 文の場合、① a 文の Das が省略され、かつ、② 定形の動詞が文末に置かれている、すなわち「副文」になっているということですね。

したがって、設問の問いは、a 文の Das を意味的に含み、かつ、副文を形成する () に入れる語は何かということになります。

そこで、まず、省略された Das について考えると、これは、先行文の文意を受ける Das なので、このことも組み込んで、設問の問いを書き直すと、先行文の文意を内に含み、副文を形成する語は何かということになり、答は、「不定関係代名詞 was！」となりませんか？

一応、設問は、「ほぼ同じ意味になるように（ ）の中に最も適切な一語を入れ」とありますので、（ ）に was を入れ、両文を訳してみると、同義になりますので、正解として was と記載します。

以上が、この設問の正解の選択肢を選ぶ私たちの解答手順です。なお、設問文の訳は「半年前から彼はブレーメンに住んでいる。そのことを私は知らなかった」です。

小問(4)

- a Schneit es morgen, fällt ...
- b () es morgen schneit, fällt ...

この設問の場合も、私たちの解答手順は、大筋で(1)と同じです。まずは、両文を比較して、「なんとなく」共通していない部分を確認(推測)します：

- a 文 Schneit es ..., fällt der Wettkampf....
- b 文 () es ... schneit, fällt der Wettkampf....

両文で共通していないのは、a 文の場合、定形の動詞が冒頭にあるのに対して、b 文の場合、冒頭に () があり、定形の動詞が文の末尾にあるということですね。

そこで、まず、問題になるのは、a 文のように、定形の動詞が「文頭」にあるのは、どういふ場合かということになります。通常は、決定疑問文、そして、…もうみなさんは察しがついていたと思いますが…、wenn 文の代用形の場合ですね。wenn を用いて、実際に書き直してみると、以下のようになります：

Wenn es morgen schneit, ...

他方、b 文のように、定形の動詞(すなわち schneit)が「末尾」にあるのは、どういふ場合かということになりますが、…これはあまりにも「幼稚な」質問?…失礼!…、副文の場合ですね。したがって、冒頭の () には、従属接続詞が入る。

以上の2点を考え合わせると、() に入る語は wenn ということになります。なお、設問の指示は、「a と b の文がほぼ同じ意味になるように () の中に最も適切な一語を入れろ」とのことですので、() に wenn を入れ、両文とも訳してみると、以下のようになり、「ほぼ同じ意味」どころか、まったく同じになります。

- a 文：明日雪が降れば、試合は中止です。
- b 文：明日雪が降れば、試合は中止です。

以上が、この設問の正解の選択肢を選ぶ私たちの解答手順です。

小問(5)

- a ..., damit sie ... verstehen kann.
- b ..., () ...zu verstehen.

【解答手順】

この設問の場合の、私たちの解答手順は、特に(2)に準じたものになります。まずは、両文を比較して、「なんとなく」共通していない部分を確認します：

a 文：... Japanisch, damit sie ... verstehen kann

b 文：... Japanisch, () ... zu verstehen

両文で共通していないのは、a 文の場合、コンマに後ろが、damit sie ... verstehen kann という副文であるのに対して、b 文の場合、() ... zu verstehen という zu 不定詞句になっていることですね。

設問の指示は、「a と b の文がほぼ同じ意味になるように () の中に最も適切な一語を入れる」とのことですので、従属接続詞 damit の副文と同義になる zu 不定詞句は何かということになりますが、damit の副文と um + zu 不定詞句の書き換え関係は、よく知られていることですね。

念のため、b 文の () に um を入れ、両文とも訳してみると、以下のようになります。どう見ても、両者は同義でしょうから、b 文の () に記載するのは、um となります。

a 文：ザラーは、落語が理解できるようになるため、日本語を学んでいる。

b 文：ザラーは、落語が理解できるようになるため、日本語を学んでいる。

以上が、この設問の正解の選択肢を選ぶ私たちの解答手順です。

大問4 次の(1)～(5)の文で()の中に入れるのに最も適切なものを、下の1～4から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

小問(1)

Es war () eine schöne Prinzessin, die wohnte ...

選択肢 -----<省略>-----

【解答手順】

まず、選択肢を見ます。zwar, fast, kaum, einmal の4つの副詞。

設問のポイントは、選択肢のこれらの4つの副詞から()に入る適切なものを選ぶかどうかですね。ほぼ100%「語彙力」の問題と言えます。昔話の好きな人には Es war **einmal** ... と、自然に口から出てくるのでは？

したがって、正解は einmal。…「昔々、あるところにドイツ語を学ぶ熱心な…」。

小問(2)

() ein Haar wäre ich von einem Auto überfahren worden.

選択肢 -----<省略>-----

【解答手順】

まず、選択肢を見ます。Fast, Um, Kaum, Kurz。副詞や前置詞や形容詞のごちゃ混ぜ。小文字で書くと、fast, um, kaum, kurz。

この場合も、設問のポイントは、選択肢の4つの語から（ ）に入る適切なものを選べるかどうか。名詞句 ein Haar の前に置ける語と言え、前置詞ですが、数詞 ein の前と考えれば、fast も可能。

「（ ） ein Haar」を除いた部分を訳すと、「私は…自動車にひかれるところだった」。この部分が訳せたとしても、「（ ） ein Haar」の（ ）に入る語が何かを決める上で、役立ちましたか？

正解の選択肢は、um ein Haar「間一髪で（<髪一本の差で）という熟語の um。前置詞 um には、差異を表す用法もありますが、このような知識は役に立ちましたか？結局は「語彙力」！さらに言えば、「熟語力」！！…ですね。

小問(3)

... habe ich ihn gefragt, () er sich freut.

選択肢 -----<省略>-----

【解答手順】

まず、選択肢を見ます。worum, worüber, womit, wovon の4つの疑問代名詞。

この場合も、設問のポイントは、選択肢の4つの語から（ ）に入る適切なものを選べるかどうか。

（ ）のある文の動詞を確認すると、freut (<freuen)。より正確に言えば、再帰動詞の sich freuen。したがって、sich freuen と結びつく疑問代名詞は何か？ということになりますが、願わくば、もう一步、…疑問代名詞が疑問代名詞 was と前置詞の結合形であることを思い出して… sich freuen と結びつく前置詞は何か？と、問いを先に進められたら、完璧なのですが。

sich freuen は、前置詞 an と結びつくと、「目前のを楽しむ」、前置詞 über と結びつくと、「目前・過去のことを喜ぶ」、auf と結びつくと、「先のことを楽しみにする」。これらのうち、選択肢にある前置詞は worüber の über のみ。したがって、正解の選択肢は worüber になります。

なお、設問文の前半 Alex sah gestern sehr glücklich aus. を訳すと、「アレックスは昨日とても嬉しそうだった」となります。

小問(4)

() sich für ... interessiert, dem schicke ich ...

選択肢 -----<省略>-----

【解答手順】

まず、選択肢を見ます。wer, wessen, wem, wen の4つの、格の異なる疑問代名詞か不定関係代名詞。

この場合も、設問のポイントは、選択肢の4つの語から（ ）に入る適切なものを選べるかどうか。

まず、（ ）に入るのが疑問代名詞なのか不定関係代名詞なのかについて考えます。疑問代名詞とすると、定形の動詞 interessiert (<interessieren) が文末にあるので、（ ）のある前半部は「間接疑問文」。しかし、そうすると、後続する dem 以下の文とどのようにつながるのか、説明がつかない…したがって、「疑問代名詞」説は、一応、正解の対象から外します。

そこで、正解が不定関係代名詞だとした場合ですが、まず、問題になるのが、（ ）を含む文が副文の構造になっているか、すなわち、定形の動詞が文末にあるかどうかですね。定形の動詞 (interessiert) が文末に置かれているので、この点は OK。

次に、問題になるのが、後続する dem 以下の文とのつながりですが、冒頭の dem は、不定関係代名詞の指示する人や事物を受ける指示代名詞と理解できるので、問題はなし（なぜ3格になっているかは、不定関係代名詞の表す人が定形の動詞 schicken の3格目的語になっているからです）。

以上の2点から、（ ）に入る語は、不定関係代名詞でよしとなりますが、残った問題はどの格形にするかになります。不定関係代名詞の格は、当該文中での意味的役割に基づくので、（ ）と他の語句との関係を見ると、主語、すなわち1格（「その人はコンサートに興味を持っている」）。

したがって、正解の選択肢は Wer になります。

小問(5)

Ohne dich hätten wir ... nicht beenden können. Sei stolz ().

選択肢 -----<省略>-----

【解答手順】

この設問では、冒頭に、かなり長い、文法的にも難しい先行文があります。もちろん、この文も理解して解答に当たるに越したことはありませんが、私たちは、この文の理解を前提としないでも、解答が可能かを考えてみます。

まず、選択肢を見ます。選択肢は、dafür, dazu, darauf, damit の4つの代名副詞（人称代名詞と前置詞の結合形）。

次に、文中での、他の語句との文法的つながりを見るため、（ ）の中にこれらの語を具体的に書き入れてみます。

Sei stolz (dafür/dazu/darauf/damit) .

動詞は Sei, すなわち動詞 sein の命令形。ただし, 代名副詞が動詞 sein と特別な文法関係を持つとは考えにくいので (ですね?), 次に, stolz との関係を考えます。

stolz と結びつくのはどの代名副詞か?そこで, 代名副詞が「人称代名詞と前置詞の結合形」であることに思いついたら, 正解はもう間近。なぜなら, 次の問いは, stolz はどの前置詞と結びつくのか?になるはずですから。語彙力の問題になりますが, stolz が結びつく前置詞は, 常識的に言えば, auf (stolz auf+ 4 格「…⁴を誇りに (思っている)」)。

したがって, () に入る語は前置詞 auf が作る代名副詞なので, 正解の選択肢は darauf。なお, 冒頭の文の訳は, 「君なしでは, 私たちは, このプロジェクトを終えることはできなかつたろうね」。そして, () のある文は, 「君はそのことを誇りに思いなさい」。